



今年秋は全日本共進会 熱い熱い一年が幕開け

県北ホルスタインクラブ（中六角保広会長）主催のB&Wショウは、4月18日、江刈共進会場で開かれ日ごろの乳牛改良の成果を競いました。町内外から12部門に109頭が出品。未經産のグランドチャンピオンには第5部一席の葛巻町畜産開発公社、経産の部では第10部一席の漆真下孝幸さん（大沢）の牛が輝きました。一席に輝いた当町の方々は次のとおりです。〈第2部〉土谷嘉考（元木）、〈第3部〉橋本太（小屋瀬）、〈第4部〉東館光夫（吉ヶ沢）、〈第6部〉中村優（大沢）、〈第9部〉折元大樹（遠矢場）、〈第11部〉漆真下孝幸（大沢）、〈第12部〉PEACE VALLEY HOLSTEINS 〈団体優勝〉江刈地区同志会

第2部では土谷嘉考さん、諭さんの親子で一席、二席を独占



仕事と家庭の両立支援 子育てにやさしい企業

社会福祉法人誠心会（和野喜一理事長）は3月18日、岩手県の「いわて子育てにやさしい企業等」に認定されました。これは、働きやすい職場環境づくりとして妊娠した時点から休みを取得できる「妊婦休業」や国の制度よりもさらに拡大し、小学校修学前まで取得できる「育児休業」などの独自の取り組みが評価されたもの。

6月出産予定で、妊娠3ヶ月目から妊婦休業を取得した上柳恵美さん（茶屋場）は「施設の方から制度を教えてください、利用しています。丈夫な赤ちゃんを産んで、職場に復帰したいと思っています」と働きやすい環境に感謝の気持ちを表します。

認定書を掲げる和野喜一理事長（写真左）と上小路隆男施設長（写真右）

光る進路達成の卒業生 新生50人も努力誓う

葛巻高校（高松博明校長・生徒163人）の入学式は4月7日、同校体育館で行われ、50人の新生を迎えました。式では、高松校長が「本校における高校生活を生涯の宝として大切にできるものにするため『自ら進んで学習する』『規律ある行動をする』『高い目標を掲げて、努力する』の三つを心に誓ってほしい」と式辞を述べました。また、新生を代表し下屋鋪千絵美さん（葛巻中卒）が「葛巻高校の生徒としての誇りと自覚を胸に、充実した学校生活を送るように、努力していきたい」と宣誓しました。昨年度の卒業生は、国公立大学に12人が合格し、厳しい雇用情勢の中、町内企業の就職を含め就職内定率は100%を達成しました。



新生50人を代表して宣誓する下屋鋪千絵美さん

森のようちえんが開園 幼児ら森の魅力を満喫

くすまき高原牧場は4月17日と18日の両日、「森のようちえん」を開催しました。県内外の幼児らが森の中で紙芝居や電車ごっこ、木登りなど自然体験をしながら、森の魅力を満喫しました。

青森県南部町から子どもと一緒に参加した尾刀幸雄さん・恵さん夫妻は、「ずっと、子どもに自然体験をさせてあげたかったが、どう遊ばせたらいいか分からなかった。今日は、自然の中でしっかり遊ぶことができてよかった」と話し、息子の太陽くんは「雪で遊んだのが楽しかった。また来たいです」と森の魅力に笑顔を見せました。

森のようちえんは3歳から6歳の幼児と家族が対象で、月2回の日帰りと四季ごとに1泊2日のイベントを開催する予定です。



「しゅっぱつ、しんこう！」と声を合わせ、森のようちえん開園に笑顔を見せる子どもたち

春の交通安全運動月間 正しい道路歩行を学習

五日市小学校（中田直雅校長、児童40人）は4月19日、交通安全教室を開催し、安全な道路の渡り方や自転車の正しく安全な乗り方について学びました。

教室は1、2年生が徒歩で、3年生以上が自転車を使って実施。葛巻駐在所員や交通安全指導員による指導のもと、横断歩道では左右の安全を確認してから歩行することを確認しました。

榎谷侑花ちゃん（1年）は「横断歩道の渡り方を勉強しました。これからも事故にあわないように気をつけます」と話しました。この交通安全教室は、4月8日から5月12日までの間、町内の全ての保育園・小中学校で開催されます。



大きく手を挙げて、横断歩道の正しい渡り方を学ぶ大道航くん（同校2年）



あいにくの雪がちらつく悪天候の中、山火事防止パレードに出発する江刈方面コースの参加車両

豊かな森林資源を守る たばこの投げ捨て注意

町山火事防止対策協議会（会長・鈴木重男町長）は4月14日、町内の山火事防止を呼び掛けるパレードを行いました。

春らしからぬ、あいにくの雪の中、町や消防関係者、林業関係者ら約50名が参加し、「消さないで小さな命の 帰る場所」を統一標語に掲げ、町内3コースに分かれてパレードをしました。

広報車や消防関係車両計18台が巡回し、「山火事から豊かな森林資源を守るため、たばこのポイ捨ては絶対にやめましょう」などと呼び掛けました。